

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



早春、開花前の呉城郷のアズ。黄土高原写真コンクール大賞を受賞した「天空のアズ畑」。

Contents

- GEN 第12回会員総会報告 P 2
- 黄土高原写真コンクール受賞作発表 P 4
- 黄土高原・植林に励んだ喜び P 5
- 小さな力がいつか大きな力に P 6

2006.7

110

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

GEN 第 12 回会員総会 15 周年記念イベント報告

6月17日、大阪市立総合生涯学習センター第1研修室にて、緑の地球ネットワーク第12回会員総会が開催されました。

会員647名・団体のうち、出席者数63名、書面による決議への参加者数239名、委任状提出者数63名、合計365名で総会が成立しました。

【議事】

2005年度事業・決算・監査報告とその承認、2006年度事業計画と予算の提案と承認、新役員の承認がおこなわれました。

新役員は次のとおりです。世話人の1人、川島和義さんが、今回副代表に就

任しました。また、小川房人さんの逝去により、顧問は石原忠一さんと遠田宏さんの2名になりました。

●代表 立花吉茂

●副代表 有元幹明／川島和義

●事務局長 高見邦雄

●会計 太田房子

●世話人 会田伸子／稲井由美／上田信／小畑勝裕／清水信孝／竹中隆／巽良生／東川貴子／干場革治／前川宏／宮崎いずみ／宮下利江／向川郁郎／村松弘一／八木丈二／山永ユカリ

●監査 早草晋／池場道明

●顧問 石原忠一／遠田宏

【永年会員表彰】

GEN15周年を記念して、92年1月の準備会発足から93年4月の正式発足までのあいだに入会して、ずっと会員としてGENの活動をささえていただいている方75名（内団体会員2）に永年会員表彰をおこないました。永年会員を代表して白形光江さんがあいさつしました。また、会員ではないけれども、15年間毎年多額の寄付を送り続けてい

ただいている方1名にも感謝を表しました。みなさんには、陽高県守口堡の万里の長城をバックにアンズ満開の写真モチーフにした感謝状をお送りしました。

【黄土高原写真コンクール表彰】

受賞作は別記いたします。審査員を代表して中村英さんが講評し、大賞を受賞した今津偕子さんが、受賞者を代表して表彰状を受け取りました。

【15年のあゆみ・DVD上映】

今春撮影した大同のスタッフへのインタビューや、ツアー8回参加の石原務さんが撮影したビデオをまじえたDVDを上映しました。ツアー参加者のあいだでは“鉄人”のニックネームで知られる石原さんが工夫をこらして編集した約10分の映像は、大変な好評を博しました。

【懇親会】

総会議事と15周年記念イベント終了後、同じ会場で懇親会をおこないました。

ティーライフ株式会社の田平強さんがお茶持参で出題した『お茶クイズ』では、日本茶は手摘みと書いてあってもほぼ100%機械摘みという事実衝撃をうけたり、「なまけもののゴキブリ」や「初恋をした猿」をあてるジェスチャーゲームでは大爆笑が巻き起こったり、楽しいひとときを過ごして親睦を深めました。



GEN15 周年記念企画

加藤登紀子ランチタイムコンサートのご案内

緑の地球ネットワーク15周年を記念して、加藤登紀子さんのトークアンドライブショーをおこないます。

加藤さんには国連環境計画親善大使として04年7月に大同を訪ねていただきました。その時のこともまじえながら、緑化や環境問題について、高見事務局長と話していただきます。

2人で話しはじめるととまらなくなるのではないかと心配ですが、加藤さんには百万本のバラなど懐かしい歌、新しい歌など数曲歌っていただきます。

そして、スングリーの美味しいロシ

ア料理も味わってください。ロシアンティーやワイン、ウォッカなどお飲み物もご用意いたします。

ふるってご参加ください！

●場所：テアトロスングリー青山（営団地下鉄銀座線／千代田線／半蔵門線「表参道」駅A3出口徒歩1分 TEL. 03-3475-6648）

●日時：9月30日（土）12時開場、12時30分開演～15時ごろまで

●会費：10,000円（飲食代込み）

●定員：120名（先着順）

●問合せ・申込み：GEN事務所まで

ご寄付・助成 ありがとうございます

◆経団連自然保護基金より、大同県周士小鎮牛家堡村の果樹園建設に300万円の助成を決定いただきました。

◆松下電工（株）の「みどりいっぱい省エネスペックインキャンペーン2005」でカササギの森23ha分として115万円のご協力をいただきました。省エネに配慮した照明器具の採用で樹木を増やす活動として取り組んでいただいて、今回3年目です。

◆国際ソロプチミスト奈良－まほろばからカササギの森10ha分として50万円のご協力をいただきました。創立時からGENの活動を応援していただき、今年創立10周年を迎えました。



記念講演『植物とのうれしいつきあい方』

前中久行さん（大阪府立大学大学院教授）による記念講演は、プロジェクターを駆使した花の写真満載の楽しいものでした。要旨を紹介します。（文責＝編集部）

●園芸を愛する日本の文化・伝統

気候に恵まれ、豊かな植物を有する日本は、園芸面で世界に貢献している。ノイバラやハマナスなどはバラの改良につかわれているし、アジサイは日本から海外にいったさまざまに改良された。アオキは、幕末にヨーロッパにいった。冬の間も緑の葉をつけるので、大変珍重され、広く愛好された。

逆にキクやボタンなどの外来の花も、生活の場になじんで愛されている。

サクラに対する愛好は日本独特で、花の咲いた木の下で宴会をするのは外国ではみられない。最近是有名なサクラの木には全国から観光客が集まり、車の渋滞で何時間かかっても、人波ごしでも、一目でもサクラを見ようと人がおしかける。

●人と植物のつきあいー環境問題

六甲山は、100年前ははげ山だった。かつて日本の西南地域の山は多くがそのような状態だった。

自然の食物連鎖は、植物を草食動物が食べ、それを肉食動物が食べる。人間は自然の生態系の、植物の部分を作物に、草食動物を家畜におきかえた。それでより多くの食べ物を得て、繁栄してきた。その結果、限られた地球の上で、人間活動が非常に大きくなってきた。食べ物も燃料もたくさん必要になり、山から木を切ってきてたきぎにするようになった。その結果、かつての六甲のようにはげ山になった。

木を切ったのは江戸時代。鎖国で交易、輸入がないから、エネルギーもすべて自分たちの回りの自然から得るしかない。それで、里山を利用し尽くしてはげ山になった。やがて外国からエネルギー源を輸入するようになって、里山からたきぎをとらなくてもよくなった。それで緑を回復することができた。

●内蒙古の植物、沙漠化と緑化

内蒙古の毛烏素沙地で緑化の研究をしている。ここは沙漠ではなく、沙漠化した土地。沙漠というのは気候条件によるもので、沙漠化とは人間のあや

まった使用のための土地の劣化、人間活動による生産力減退だ。沙漠化の原因は、過剰な伐採、過放牧、不適切な開墾。内蒙古でのいちばん大きな問題は過放牧である。

風で動く流動砂丘にも、アカザ科の植物が生えている。これが少し安定してくると、ヨシやヨモギ、一番安定したら、ヒノキ科の臭柏がでてくる。こういうところに戻したい。

現地でおこなわれている砂丘緑化の方法を紹介しよう。流動砂丘は風で1年間に1～2mぐらい動く。砂丘が動いていく方向が前、その反対が後ろ。この後ろ側の一番根元のところに、サリュウ（沙柳）を挿し木する。そうするとここだけ植物が茂って風を防ぐ。砂丘の上の方は、風が砂を吹き飛ばして平らになる。つぎはマメ科のヤンツァイ（楊柴／羊柴）を植え広げていく。どちらも家畜のえさになるし、たきぎや養蜂など生活に役立つ。それから、4mぐらいになるヤナギのハンリュウ。これは大きくなったら材木になる。すべて

生活に役立つものだ。

●乾燥地緑化の問題

緑化の一番の問題は水だ。水がないと育たない。一方、水があるからといってどこでも植えるのが果たしていいことだろうか。

沙漠で木を植えたところの地下水のデータを見ると、水位が下がり続けているのがわかる。地面からの蒸発で減り、植物からの蒸散で減る。

砂丘の断面の写真をみてみよう。上の方の砂は乾いていて白いが、その下に湿った赤っぽい砂がある。乾いた砂が湿った砂をおおって、蒸発を防いでいるのだ。ここに木を植えると、この湿ったところから水を吸い上げて蒸散してしまう。

日本のように雨が多いところでは考えなくてもいいことだが、乾燥地で緑化する場合は、貴重な水をなにもに使うかということを常に考えなくてはいけない。

いまあぐできる GEN への協力

緑の地球ネットワークは1992年にスタートして今年15年目に入りました。中国黄土高原の緑化協力では地元と緊密に連携して実績をあげています。

これまでの活動が、会員のみなさんからの会費と広くご協力いただいているカンパ等で支えられてきたことに感謝いたします。

GENの会員になる、寄付をお寄せいただくなど、これからも応援していただきますようお願いいたします。

作業の都合上一律に郵便振替払込票を同封しましたが、最近ご協力いただいた方には重ねてのお願いではありません。ご了解ください。

◆GEN 会費年額

一般 12,000 円、家族 6,000 円、学生 3,000 円、ジュニア 1,000 円、団体 12,000 円、

賛助 100,000 円

◆会報購読料…年額 2,000 円

◆カササギの森協助力金…1口5万円（中国大同市の実験林場1haの緑化費用）

◆緑化基金…額はいくらかでも結構です。

◆運営資金…額はいくらかでも結構です。

GENは国税庁の認定をうけ、2005年6月1日から認定NPO法人になりました。認定NPO法人への寄付は寄付金控除等の対象となります。

○個人の場合、「寄付金額－5千円」を所得金額から控除できます。

○企業の場合、一定の条件下で寄付金を損金として扱うことができます。

○相続・遺贈による財産を寄付した場合、相続税の課税対象になりません（対象になるのは相続税の申告期限までに寄付されたものです）。

GEN15 周年記念黄土高原写真コンクール受賞作

おかげさまで、GEN15 周年記念黄土高原写真コンクールには、92 名の方から、224 の作品をお寄せいただきました。集まった 93 年 4 月から今春までの写真を見ていると、大同の変化や緑化がすすむようすなどがよくわかります。

応募作品をネット上で公開し、1 人 5 作品までとして投票を募ったところ、81 人から 331 票の投票がありました。投票結果を参考に審査員が審査をおこない、各賞を決定しました。受賞作品は会員総会後の 15 周年記念イベントで発表し、審査員を代表して中村英さんが講評しました。つぎのとおりです（敬称略）。ここで紹介できない作品は、順次会報の表紙などで紹介します。

◎大賞

天空のアンズ畑／成瀬博行「断崖のアンズのようにがよくでている。花が咲いているところの写真が見たい」（表紙）
無題／今津偕子「植樹をおえた子どもたちの表情がとらえられている」

◎緑化活動部門賞

無題／石田和久「霊丘自然植物園の植樹が大変だったのがよくわかる」
地の人／稲垣文拓「写真を撮ろうという意図が感じられる」

◎植樹部門賞



水運び／蔵野妙子「左側の水運びの子どもペアが、ちゃんと写っていたらもっとよかった」



小学校付属果樹園／大坂哉司「年寄りの冷や水ならぬ運び水。よれよれとい

うコメントだが、たのましい」

◎風景部門賞



浸食の激しい谷間に咲くアンズの古木／安曾田カヨ子「環境の厳しさを端的に表現している」



大同の夕焼け／松岡志乃「こんなに美しい夕焼けはあまり見られないのでは」

◎子ども部門賞



無題／中村文生「はにかんだような子どものようすがほほえましい」



笑顔／中亜由美「子どもたちの元気で屈託のない笑顔がいい」

◎交流部門賞

一期一会／大森裕司「わざと破れたジーンズにしているのに、縫われて本当は悲しかったのでは」

◎笑顔部門賞

最高の笑顔／藤掛盾「アップはむしろかしいものだが、いい瞬間をきりとった」

◎暮らし部門賞

お母さんの大鍋／福井喜久子「生活感とお母さんの表情がいい」

◎ユーモア部門賞



おっとびっくり／和田剛志「数えてみると 15 人乗っています」

◎記録部門賞

起工式／今村藤三郎「何もないところからはじまったのがよくわかる」

◎交流努力賞



無題／川上四郎「1993 年（撮影）という歴史に敬意を表します」

受賞者のみなさんには、協賛団体からご協力いただいた賞品と、受賞作をおさめた写真立てを送りました。

【協賛】OFS（オリエンタルランド労働組合）、サントリー労働組合、イオン労働組合、株式会社リコー、東北電力総連、富士ゼロックス株式会社

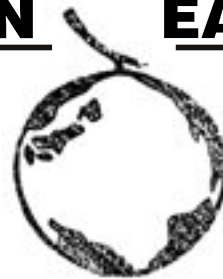
受賞作および応募作品は、ひきつづきインターネットで公開しています。

<http://www.k4.dion.ne.jp/~gentree/zwphtoc.html>

応募者・協賛団体には、応募作品を収録した CD をお送りします。ただ、規定数をこえてたくさんお送りいただいた写真や、GEN 事務所秘蔵（？）の写真なども収録しますので、完成・送付までもうしばらくお待ちください。

応募者・協賛団体以外でこの CD をご希望の方には、郵送料込み 1,000 円でおわけします。GEN 事務所までご連絡ください。

黄土高原・植林に励んだ喜び



カササギの森で植樹をしたあと、記念撮影

5月1日から3日まで連日続いた晴天に恵まれる中、小学校

3年生から高校まで9年間にわたって机を並べたわが長春外国語学校時代のクラスメート13人が北京や長春や日本から足を伸ばし黄土高原の大同を訪れた。「白登育苗基地」、大同県聚楽郷「地球環境林」、渾源县呉城村・育紅学校「希望果樹園」と「綠色環境林中心」を訪ね、「カササギの森」で植樹に汗を流した。GEN大同事務所武春珍所長をはじめ中国側のパートナーたちと懇談し、今日までたどってきた黄土高原緑化事業の艱難に理解を深めた。班長宮宏光さんがクラス全員から集めた協力金を渡し、呉城村育紅学校に記念品を贈呈した。「労働」をつとめた有意義なGW、また人生五十を過ぎた感無量の一時を過ごしたことを一行は喜んだ。(李建華)

有意義なメーデー

程永華 (元日本駐在中国大使館公使)

このたび、有意義なメーデー休日を過ごした。長春外国語学校時代のクラスメートと一緒に山西省大同県聚楽郷「カササギの森」へ植林にいった。

50も過ぎて、かつてのクラスメートで植林にいくなんて、しゃれたことをするなと思われるかも知れない。しかし、これはしゃれではない。私たちはますますひどくなる「黄砂」を体験して、微力とは知りながら、一中国人として行動に出たのだ。それぞれポケットマネーを拠出し、GWの休暇を利用して、黄砂来襲三ルート内の一つ、山西省に向かった。黄色い大地を相手にショベルで奮闘し、作業を半日も続けると、汗が額から、顔から、体中から滴り、まったく水っ気のない大地に染みいる。それでも二百数十本の松の苗木が大地に立ったという成果を見ると、顔が汗と砂ばこりでまみれていながらも、心で少しは環境保全の力添えになったと満足感を覚えている。クラスメートたちが幼い頃の思い出に話が弾み、兄弟姉妹のような連帯感もいっそう強くなった。

地元の農民は一同に「老高」という名前を口にする。高見邦雄さんのことを指している。「老高」は1992年からここで植林事業をしてきた。彼と彼の仲間の日本人が最初にこの山村に来た頃、小石を投げつけられたこともあったそうだ。旧日本軍が中国を侵略した時、山西省の人々も大きな損害を受け

たからだ。それでも高見さんは農民と真心の交流を続け、地元から「老高」という全然わだかまりのない、親しい呼び名をつけられるようになったのだ。植林緑化事業は日本の多くの機構、団体から資金、人的援助、協力をいただき、だんだん大きく実を結ぶようになった。これを通じて、中日両国人民の間に心の絆が結ばれ、橋が架けられつつある気がする。

北京へ帰る車から外を眺めると、草木のない黄色い大地が延々と伸びている。これから、より多くの「老高」と、私たちのような「老青年」がこの事業に参加し、努力を続けていかなければならない。

大同の黄土を見て

ト雁 (淑徳大学講師)

GWを利用して昔からの学友たち13人が高見邦雄さんの足跡をたどって大同へ植樹に行ってきました。昨年の夏、李建華君からGENの植林事業を聞いて感動を受けた皆が、自分たちのささやかな気持ちを我ら黄土高原に捧げようと意志を同じにしたのがことの始まりでした。

私にとって大同の土を踏むのは2回目ですが、真摯な気持ちである黄土を見て触って、また現地の人たちと密に接したのは初めてです。実績の数々を見学しながら武春珍所長の紹介を聞いて、高見さんが書かれた『ぼくらの村にアン

ズが実った』の通り、今までの困難とそれを乗り越える智慧と辛労が身に沁みて分かり、胸が強く打たれる思いでした。

特に、農民たちが先代から伝わってきた自分たちのやり方で苗木を育てるのだという頑固な考えに対し、高見さんたちは根気よく実験で科学方法を分かってもらったり、一緒に生活したり、貧しい村人たちに家族のように迎えられるようになった現実、その土地と緑化に対する執念がなければできないことだと感激しました。信頼、地球と人に対する愛がなされる業。その愛をお持ちの高見さんもその土地の人々に愛されているのです。

黄土高原、雄大で謎めく中華文化を育んだ土地でもあれば、現在周囲の環境に悪影響を与える場所でもあります。壮大な丘陵地帯に点在する緑の希望を見渡し、どんなにここは愛の力が必要かと感慨にふけりました。そこで執念深く緑化に力を注いでいる方々に敬意を表し、心からの感謝を捧げます。



黄土の地にマツ苗を植える

小さな力がいつか大きな力に

小 鍛 治 知 子 (国際ソロプチミスト奈良ーまほろば)

長く GEN を応援してくださっている国際ソロプチミスト奈良ー6クラブの訪中団 16 名が、4 月 25 日～29 日の日程で大同を訪問しました。写真コンクールにもたくさん応募をいただきましたが、会報に手記を寄せていただいたので紹介します。

私たち、奈良県下 6 クラブのソロプチミストは「ストップザ黄砂」「杏の花の咲くころに植樹に行こう」を合言葉にして「中国山西省黄土高原緑化・教育奉仕訪中団」を結成し、4 月 25 日大阪を出発しました。

6 クラブのソロプチミストは 1994 年より緑の地球ネットワークへの支援を続けています。最近になって新聞やテレビで黄土高原の砂漠化の問題が頻繁に取り上げられるようになりました。同時に緑の地球ネットワークへの取材も多くなり、その存在も内外に知られるようになってきました。それは高見さんをはじめとするスタッフの地道な努力の賜物以外のなにものでもないと思います。

黄土高原の大地に立ってみて、その広大さに驚き目を凝らせば、茶色の土の色に混じって緑の木がならんでいました。かなりの面積が植樹されてあるように見受けられましたが、いやいや中国の大地は私の目のとどくことのないずーっと先まで続いているのです。その地が毎日の強風に土ぼこりをあげ、果てはこれが日本まで飛んでくるのだと身をもって感じた次第です。現地の方のお話を聞きながらも、この高原はこれから先、何年かかって緑の大地になるのだろうか…、この緑化運動が終わりをむかえる日はくるのだろうか…、この地の方々の暮らし向きは少しでも楽になるのだろうか…、さまざまな思いが込み上げてきました。



カササギの森でマツ苗を植えるツアー参加者

自然の前には人間の力は微力だと思ひ込み、いえ、小さな力のまず 1 つか

らいずれは大きな力になるのだと思ひ直し、この厳しい環境のなかで生活をしておられる方々の力強さも知りました。

またいつか訪れる機会があることを願っていますが、私たちが植樹した 110 本のマツの苗木とともに、この大地がもっともっと緑の色 1 色に変わってほしいと心から願っております。

平山郁夫さん、環境林センターを訪問

平山郁夫 (日中友好協会会長、東京国立博物館特任館長) 夫妻と、酒井誠

同協会常務理事などの一行が 6 月 9 日夕、山西省訪問の多忙な時間を割いて、



私たちの協力拠点＝環境林センターを訪れ、激励されました。これには中日友好協会の許金平秘書長も同行されました。平山会長は「緑化地球造福千秋」の書と緑化資金を残されました。大同事務所と環境林センターの関係者は中国でも有名な平山先生の訪問と激励を受け、たいへん喜んでいました。(高見)



会員総会の出欠のお返事にそえていただくメッセージ。みなさんからいろいろな近況を知らせていただけて、事務局一同いつも楽しみにしています。一部を抜粋してご紹介します。

●この度会員になりました。お手紙をいただき、本当にどうもありがとうございます。絵はがきはすごくいいですね。素晴らしい活動なさっておられるので、少しでも応援したいと思いました。お体を大切になさってがんばってくださいませ!! (IT)

◇応援ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

●永続会員表彰のご連絡ありがとうございます。会費納入のみで申し訳ありません。当日も合成洗剤追放全国集会を大阪で開くための準備会があり、

残念ながら出席できません。(TS)

●全くの幽霊会員で申し訳ありません。会員でいることが環境問題に対する関心を失わないための歯止めになっていると思います。これからも関心を持ち続けたいと思います。(H.K)

◇関心を持ち続けること、大切ですね。GEN が環境問題への接点になれるように、がんばります。

●黄土高原、今年のワーキングツアー参加で、長年の念願を果たします。好きな言葉に「万人愛林、緑風万里」があります。少しでもお役に立てばと思っています。よろしくお願いいたします。(TK)

●「日本」と「中国」の関係に複雑な気持ちを感じていますが、GEN の活動を信じ、微力ながら参加し続けていきたいと思っています。皆様にお会いしたいのですが…残念ですが欠席します。(M.N)

●小学校の社会や理科の教科書に

戦争とは、国家とは、そして人は……

ドキュメンタリー映画『蟻の兵隊』紹介

西田 幸信 (GEN 会員・会社員)

2003 年 11 月に『延安の娘』のビデオ上映・対談にきていただいたこともある、映画監督池谷薫氏の長編ドキュメンタリー映画『蟻の兵隊』を紹介します。本作品は、『延安の娘』に続く池谷監督・長編ドキュメンタリー作品の第 2 作で、4 月に開催された香港国際映画祭で“人道に関する優秀映画賞”を受賞しました。

かつて日本軍が GEN の活動地域でもある山西省に侵攻したことは比較的広く知られています。一方で、その山西省に戦後も残留して国民党軍に組み入れられ、国共内戦を戦わされた日本軍兵士がいたことをご存じの方は少ないでしょう。さらに、“残留の真相”を究明するために、その方々が文字通り人生をかけて国を相手に裁判をたたかったこととなると、全くといっていいほ

ど知られていません。

筆者は学生時代から池谷監督作品に接してきましたが、その“観る人の感性”に委ねる描写、衝撃的映像に、いつも圧倒され感銘を受けます。GEN の活動地域と私たちが生活する日本を、またそれらの過去と現在をリンクして考えるよいきっかけになると思います。ぜひ、ご一見ください。

公式 HP <http://www.arinoheitai.com> (予告編が観られます)

◆東京：渋谷イメージフォーラム／7 月 22 日 (土) ～◆大阪：第七芸術劇場／8 月 5 日 (土) ～◆名古屋：シネマスコア／8 月 5 日 (土) ～

※東京、大阪の初日、名古屋の 2 日目に、池谷監督と奥村和一さんのティーチインがあります。

◆福岡：アジアフォーカス福岡映画祭 (9 月 15 日～24 日開催予定) への出品

* * * * *

～池谷監督からのメッセージ～

GEN の皆さんへ

2 年前、奥村さんと初めて出会ったときの印象は、寅さん映画のおいちゃん役・下条正巳さんに似た笑顔が素敵なお爺ちゃん。

でも、残留の資料を広げたら突然、怒り出した。その顔がよかったんだなあ。こんないい顔して怒る人を久しぶりに見た。

で、僕は奥村和一に惚れて映画をつくることになった。

「蟻の兵隊」は奥村和一のヒューマンドキュメンタリーです。あまり難しいことを考えず、奥村さんの喜怒哀楽に満ちた顔をスクリーンでみてください。

そこから、ちょっとだけ戦争を感じることができるかもしれません。

「蟻の兵隊」監督・池谷 薫

✧ GEN の名前がのっていました。仕事が忙しくなるばかりですが、ワーキングツアーにまた参加したいと考えています。(W.T)

●いつもこの会の活動の成功と発展を祈っております。東京から熱い応援を送ります。「日本と中国」に載っている高見さんの記事、面白く楽しみに読んでいます。(O.Y)

●どんな催しにも遠く離れていますので参加は難しく、自分のできることで協力することはないかと模索中です。(K.T)

◇GEN の国内活動は、どうしても近畿と東京 (関東ランチ) が中心になります。遠方の方にはなかなかご参加いただけませんが、他の方が書いておられるように、お近くで環境や中国など関心に応じた活動に参加され、そのようすを教えていただけると嬉しいです。

●中国のエイズの番組を見ました。その中で、とにかくにも中国では北京との人的つながりを持つのが大事というのを感じました。GEN も北京の中で仲良しを作ってください。(T.T, T.S)

●初めての中国旅行で沢山の感激と思い出を得ました。その後も伊豆合宿で多くの方と出会いを持ち、GEN に入っ

て、良かった、良かった。では次は？(M.T)

●いつも楽しく拝読させていただいています。なかなか参加できませんが、今後ともよろしく願いいたします。神戸市須磨区おらが山での、「どんぐりネット神戸」「こうべ森の小学校」「高倉台青年会」の年 3 回の活動もそろそろ 10 年になります。皆様も一度いらっしゃってください。(W.K)

●いつもご連絡ありがとうございます。侯喜さんがお亡くなりになられたとのこと、お会いしてからしばらく経ちますが、お元気な姿の印象が強く、信じられないと思います。ご冥福を心よりお祈りいたします。(M.M)

●地球温暖化による環境変化 (砂漠化の一因も地球温暖化でしょうか) が加速的に進んでいると危機感をもっています。「緑の地球ネットワーク」の緑化事業の重要性が増すばかりです。山西省大同市での緑化事業がますます発展することを期待しています。(M.R)

●なかなか活動に参加できず申し訳ありません。写真コンテスト、懐かしいものが多くて…。大同の地に立ってからも 9 年です。「行かなきゃ、行かなきゃ」という思いはあるのですが、す

みません。(U.T)

●昨年の夏のツアー参加からはや 1 年も経ちました。TV で GEN の活動をたまたま目撃したり、日本商社が中国の CO₂ 排出権を売買して、その資金で中国は更に石炭採掘に投資するなど (NHK 特集)、中国の様子を見るたびに、GEN の活動や中国、日本、自分のこれらについて色々考えます。微力ながら、遠くから応援しています。中国で活動中の皆様、お体に気をつけてください。よろしくお願いします。(I.K)

●今、フィリピンです。「植林を掲げている NGO なのに、その実態は？」と文句を言いながらも、若いメンバーが立て直しに必死になっている姿にほだされて今回は最後、とこちらに来ています。GEN のホームページを開いて「こういうのが本当の NGO よ」と先輩づら (!?) をして見せています。GEN の存在意義がこんなところにもあるということをお知らせしたいと思い、書きました。では皆様、お忙しいでしょうが健康には気をつけられてご活躍くださいよう。(I.S)

◇日本も、中国も、フィリピンも、同じ地球の上にある！ 地球の緑を大切にしましょう。

情報ひろば
いっしょなかたち

第1回 日中友好音楽祭

大阪と中国蘇州の青少年中之島に集う！
水郷蘇州から『蒲公英芸術団』を迎えて

蘇州の少年宮と大阪の高校生に、日本・中国の音楽家たちがくわわり、歌、中国の民族楽器、ダンス、吹奏楽などのパフォーマンスをくりひろげます。

- 日時：8月28日（月）16時30分開場、17時開演
- 場所：大阪市中央公会堂（地下鉄御堂筋線／京阪電鉄「淀屋橋」駅徒歩5分。TEL. 06-6208-2002）
- 入場料：1,300円（前売券）1,500円（当日券）
- 出演：蘇州市滄浪少年宮『蒲公英芸術団』／CALESS INTERNATIONAL／李広宏／久保美雪／平本昌宏／ベル・レゾノンス／尾崎屋真友／茅野憲子／松前佳代／大阪府立池田北高校／総司会：アラン・タンバガン
- 主催・問合せ先：NPO大阪府日本中国友好協会日中友好音楽祭実行委員会（〒552-0021 大阪市港区築港2-8-28 pia NPO 5F TEL. 06-4395-1111）

第27回国際協力フォトコンテスト

この星のアルバムつくりませんか

いまもたくさんの開発途上国で40億を超える人びとが厳しい環境や貧困のなかで生活しています。そのような開発途上国の「人づくり」に協力する国際協力機構（JICA）では、国際協力の現場や開発途上国の人々の生活文化、自然を撮影した写真を募集します。

- 募集期間：6月30日～9月14日（必着）
- 主催：独立行政法人国際協力機構（JICA）
- ※他のコンテスト等に未応募・未発表の作品に限る。
- ※募集内容や応募規定等については下記応募・問合せ先に問い合わせるか、<http://www.jica.go.jp/classroom/photocon/index.html> をご参照ください。
- 応募・問合せ先：「JICA 国際協力フォトコンテスト」事務局（〒160-0023 新宿区西新宿6-10-1 日土地西新宿ビル20階（財）日本国際協力センター開発業務部内 TEL. 03-5322-2546 FAX. 03-5322-2590 E-mail : photo27@jice.org）

編集後記

高見事務局長の『ほくらの村にアンズが実った』を中国語に翻訳してくれた李建華さんが、大同で同窓会を開いた記事が5ページに載っています。このすばらしい日本語、みんなご自身で書いていただいたものです。ありがとうございました。

池谷薫監督の映画『蟻の兵隊』公開に先立ち、『私は「蟻の兵隊」だった』（岩波ジュニア新書）という本が出ました。奥村さんが、かつて訓練の最後に初めて人を殺した現場を訪ね、「日本兵に戻ってしまった」場面は圧巻。スクリーンで確かめようと思います。

本をもう1冊。バグダッドに暮らす若いイラク人女性のブログ（<http://www.geocities.jp/riverbendblog/>）を本にした『バグダッド・バーニング』の続編『バグダッド・バーニング2 いま、イラクを生きる』（アートン）がでます。『蟻の兵隊』は元兵士のドキュメンタリーですが、こちらは現在占領下にある市民のドキュメンタリー。日本もこの占領に無縁ではありません。（東川）